

会 議 録

令和元年5月27日
福祉部こども課少子化対策係

会議名称	令和元年度第1回渋川市子ども・子育て会議
開催日時	令和元年5月24日（金）午後5時～午後6時
開催場所	渋川市役所 第二庁舎 201会議室
出席者	委員 17名
事務局	福祉部長、こども課長、少子化対策係長、少子化対策係員2名
配付資料	別添のとおり
会議次第	1 開会 前田副委員長 2 挨拶 齋藤委員長、諸田福祉部長 3 議事 (1) 第2期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果について (2) 第2期子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて (3) 公立保育所及び幼稚園の認定こども園への移行について 4 閉会 前田副委員長
主な意見	○第2期子ども・子育て支援事業計画策定関係 意見なし。 ○公立保育所及び幼稚園の認定こども園への移行関係 移行については、特段の異論なし。 かに石幼稚園の移行については、保護者の就労・育児休暇に伴う保育ニーズを踏まえ、満3歳未満児の受入れを検討しながら移行を進めていくこと。

発 言 者	発 言 内 容
事務局	資料に基づき、(1)～(2)まで一括説明 ～意見無し～
事務局	資料に基づき、(3)について説明
委員	伊香保保育所とかに石幼稚園の定員は。
事務局	伊香保保育所が88人、かに石幼稚園が20人になります。
委員	こども園になると、定員が増えるのか。
事務局	定員については今後検討します。特にかに石幼稚園は、受入開始年齢を踏まえ、検討する必要があります。
委員	小野上地区は、例年何人ほど出生しているのか。
事務局	例年、3～5人で推移しております。
委員	現状は幼稚園として、3～5歳の子どもを受け入れていると。
事務局	はい。今年度の園児数は7人です。小野上地区は、未就学児が22人おります。 補足ですが、認定こども園のメリットとして、親の就労状態に関わらず、子どもが同じ施設に通い続けられるという点がございます。例えば、保育園は「親の就労等の状態により、保育に欠ける子の保育を行う施設」であるため、親が仕事を辞めれば、子どもは幼稚園に移らなければ行けません。逆に、当初幼稚園に通わせたが、親の就労により、幼稚園を出て保育園に、というケースも多々あります。認定こども園への移行により、そのような入退園をすることなく、続けて子どもが同じ園に通えるため、子どもの教育や環境の変化にもよいだけでなく、保育園と幼稚園双方の機能を持つため、園児数の増加により施設の賑わいにも期待できます。
委員	離職した場合は、保育してもらう時間は。

事務局	<p>こども園の一日は、別紙のとおりです。</p>
委員	<p>親が就労しなくなれば、1号の子どものスケジュールになります。</p> <p>認定こども園の制度が始まった当時、スケジュールの異なる子どもたちが一つの園で生活することについて、懸念されていたところであるが、渋川市内でこども園に移行した園の状況がわかれば、話をお伺いしたい。</p>
委員	<p>大島幼稚園は、H29にこども園に移行した。</p> <p>1号の子は、バス通園で通い、2号の子は朝7時半から送迎されている。一時預かり等、職員の方で柔軟に対応している。</p> <p>一時預かりの利用料は、月で上限を設けている。</p> <p>2号の子の親は、殆どがフルタイムで働いている。</p>
委員	<p>かに石幼稚園は、何歳から受け入れるかで、地域の状況が大分変わると思う。通園バスの運行を含め、どのように対応していくのか。</p> <p>3歳以上からの受入れでは、集まらないのではないかと。</p>
委員	<p>小野上地区在住で、地区外の保育園に預けている親もいるのか。</p>
委員	<p>実際にいた。また、兄弟がいると、大体同じ園に預けるので、そのまま地区外の園に預けて・・・というケースが多い。</p>
委員	<p>私も、小林委員が言うまさにそのケースのうちの1人で、小野上地区に住んでいたが、夫婦で働いていたため、上の子をこぼと保育園に預け、下の子も同じように預けた。そして、子どもの友達が多くなったので、そのまま金島地区に住むようになった。</p> <p>子どもの環境も定住先に影響するので、移行するなら出来れば未満児を受け入れて欲しいと思う。</p>
事務局	<p>未満児の受入れについては、職員配置や調理設備設置の制約があるので(未満児の食事提供は自園調理が必須)、移行に必要な整備費を</p>

委員	<p>踏まえて慎重に検討します。</p> <p>2園の移行については、よりよい方向に進むように、事務局側で進めて頂き、引き続きこの会議の場で議論することとしましょう。</p> <p>(18:00 終了)</p>
----	---